

弘前大学理工学部後援会報

第21号

発行日 令和7年2月22日
発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
弘前大学理工学部後援会(理工学部内)
印刷所 やまと印刷株式会社
連絡先 御領 潤(理事・教員)
TEL: 0172-39-3555



研究科長ご挨拶

大学院理工学研究科長・理工学部長 金 本 俊 幾

弘前大学理工学部後援会の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より理工学部および理工学研究科への温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、昨年4月より前任の岡崎雅明研究科長・学部長の後任として、同職を拝命いたしました。2016年4月に、国内の半導体企業より理工学部に着任しました。大学イメージポスターのコンセプトにもある通り、この街は古くから城下町として栄え、今もその街並みに歴史と文化が色濃く息づいています。私は「学ぶ街は、暮らす街でもある」という言葉を実感し、この街で学ぶ弘前大学理工学部の学生の皆さんが、新たな発見に素直に感動し、楽しさを感じることでできる印象を受けました。

それでは、最近の弘前大学理工学部の状況についてお話しさせていただきます。

理工学部の昨年3月の卒業生の皆さんの、就職希望者数に対する就職率は96.7%で、高い値となりましたが、一方で県内定着が課題の一つとなっております。これは少子化対策にも通じるのですが、労働人口の減少や地域経済の停滞が懸念されるなか、これに対処するためには地域における産業基盤の強化と雇用創出が必要となります。新しい企業を誘致することで、地域に新たな雇用の場が生まれます。特に、高度な専門技術を持つ

人材を地域に引き寄せることができれば、人口減少に歯止めをかける一助となると考えられます。企業の進出は、我々地元の教育機関や研修プログラムとも連携することで、地域住民のスキルアップや就業機会の拡充にもつながります。青森県では、半導体や情報産業などの新しい企業を誘致し、地域定着を促進する活動が進められており、弘前大学理工学部でも産学官の連携に積極的に取り組んでいます。

さて、国立大学を取り巻く環境は厳しさを増しており、さまざまな評価が大学の運営に影響を及ぼすようになっています。理工学部も例外ではなく、弘前大学の中期計画を踏まえ、年度計画に沿って教育、研究、社会連携などを進めています。令和6年度に実施されました令和5年度の学内での評価では、理工学部・理工学研究科は高い評価を得ることができました。その根拠となった活動の中には、理工学部後援会のご支援により実施できた施策も含まれております。また、保護者の皆様との懇談会や、在学生の研究発表の支援、企業見学など、学生を中心とした大学における教育研究活動がより実り多いものとなっているのも、後援会の皆様のご支援のおかげであると深く感謝しております。私ども理工学部・理工学研究科の教職員一同、今後も一層充実した教育と研究を進めていけるよう努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



会長ご挨拶

弘前大学理工学部後援会会長 糠 塚 いそし

後援会会員の皆様には、平素より本会の活動にご理解・ご協力いただき心より感謝申し上げます。おかげさまをもちまして本会報にありますように、令和6年度におきましても理工学部の教育研究活動に所定の支援を実施することができました。

さて、昨年の10月19日に開催されました総会では、よいニュースと悪いニュースを取り上げて私のご挨拶とさせていただきます。よいニュースの方は全く個人的なもので、大谷翔平選手の活躍を取り上げました。後援会活動と何の関係か？と言われればその通りですが、前人未到の記録を次々と打ち立てる大谷選手の姿は、本当に私たちをわくわくさせるものでした。投手と打者の二刀流として注目されていた選手が、故障のため打者に専念せざるを得なくなった状況での活躍です。いま現在置かれている立場が自ら望んだものでないとしても、できる限りの努力をすべきだという点で私たちに教訓を与えるものです。

次に悪いニュースでは東大の授業料値上げを取り上げました。現在国が定める標準額(53万5800円)となっている授業料が各大学の裁量で引き上げることができる上限の64万2960円とされます。報道によると東大の増収は年13億5千万円となる見込みだそうです。東大の全収入から見ると1%にも満たない額

であるにもかかわらず、値上げに向かわざるを得ないのは、ひとえに国からの交付金の減額が大学の運営を厳しいものとしているからであると言えるでしょう。

大学の授業料に対する考え方として二つの方向があるといえます。ひとつは学生を受益者とみる考え方で、大学や大学院を卒業・修了して社会人となったときにはそれなりの収入が得られるようになるので、大学の運営費も個人として相応に負担すべきだということです。もう一つの見方は、大学や大学院で高度な知識や技術を身につけて卒業・修了した学生は、社会を活性化し成長・進歩させることができるので、受益者は学生個人ではなく社会全体であるということです。この考え方では大学の運営費は社会全体で負担すべきものとなります。

残念ながら、日本社会は前者の方向に進んでいるように感じます。翻って、後援会活動は後者の考え方に少しでも近づこうとしているのではないのでしょうか。会員の皆様の想いをつなげることによって、理工学部の教育研究活動を全体として支えていこうと考えています。

最後に理工学部のよいニュースがたくさんあるということを皆様にお伝えしたいと思います。理工学部ホームページ(<https://www.st.hirosaki-u.ac.jp>)をご覧ください。是非ご覧ください。

理工学部保護者懇談会（札幌会場）のご報告

理工学部学務主任 御 領 潤

後援会の皆様方におかれましては、日頃からのご厚情に厚く御礼申し上げます。去る令和6年9月21日(土)の午後13:30より17:30にかけて、毎年恒例となっております令和6年度理工学部保護者懇談会を札幌にて開催いたしましたので、ここにご報告させていただきます。会場も例年通り、札幌駅前にあるテナントビル「アスティ45」内にある貸会議場「ACU」を使用させていただきました。非常に便利な立地にあり、会議室も十分に広く、本懇談会の開催に大変適しております。当日は爽やかな晴天に恵まれ、道内各地より71名にのぼる多くの保護者の皆様にご参加いただくことができました。冒頭、学部長からの理工学部全体に関する現況報告があり、就職対策委員長による最新の就職状況に関する報告、ならびに学務主任による成績評価



に関する説明と続き、そして各学科長等が担当する個別相談会が行われました。会全体を通じて、ご子息・ご令嬢の普段の学生生活や成績評価、今後の就職活動に関する保護者の皆様の関心の高さを伺い知ることができました。また、アンケートの回答でも好評価をいただいております。この会が大変有意義なものであることが裏付けられております。今後につきましても、是非とも本懇談会を継続させていただきたく、後援会の皆様から引き続き厚きご支援を賜ればと存じます。ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

「企業人による講演会」「OB・OG講演会」報告

理工学部就職対策委員長 梅 田 浩 司

理工学部就職対策委員会主催の「企業人による講演会」と「OB・OG講演会」を令和6年11月20日(水)に理工1号館、第10講義室で開催しました。その際、理工学部後援会から、就職ガイダンス経費として両講演会の開催に対してご援助を頂きました。理工学部後援会の皆様に厚く御礼申し上げます。

「企業人による講演会」は、地元企業の経営者として東北化学薬品株式会社 代表取締役社長の東 康之氏をお招きし、「企業のトップはどのように考えるか」というタイトルでご講演いただきました。東北化学薬品は、青森県生まれの数少ない上場企業であるが、地方創生が叫ばれる中、東北経済の活性化と隆盛を図りつつ、日本経済全体へ貢献するために事業に取り組んでいるといったお話がありました。また、地域貢献活動の一環として弘前大学のCOI-NEXTに参画していることも紹介されました。

「OB・OG講演会」は、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社の鍛冶純輝氏をお招きし、「働くとは」というタイトルでご講演いただきました。講演では入社5年目から技術職から営業職に配置換えが行われた経験も踏まえて、2つの職種の仕事に対する考え方の

違いと仕事での苦労とやりがいなどのお話をいただきました。本講演会は、対面形式で行われ、約40名の方々にご参加頂きました。また、質疑討論も活発に行われ、就職活動を控えた学生の就職に対する高い注目度がうかがえました。

講演会に参加した学生にとっては、就職してから仕事に対してどのように対応すべきかを考える非常にいい機会になったと考えております。今後ともご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



企業人 東氏



OB 鍛冶氏

外部研究施設での実験実習事業（大型放射光施設 SPring-8）報告

理工学研究科 数物科学コース 増 田 亮

姫路にある書写山圓教寺は紫式部の時代に大いに崇敬を集め、多くの貴族や文人が訪れました。その圓教寺から西北西に約20kmの兵庫県佐用郡佐用町に、世界から

研究者が訪れる最先端の実験施設SPring-8があります。SPring-8は放射光施設の中でも世界最高のエネルギーで運用されている共同利用施設であり、人文科学から自然

科学の様々な領域で、X線を利用した研究法による多様な研究が行われています。このたび、私たちの研究室では、後援会のご支援を頂いて、SPring-8にて放射光メスbauer分光法と呼ばれるX線測定手法による実習実験を行いました。

行ったのは、数十万気圧もの極限的に高い水素圧力下での物質が示す不思議な形態を調べる物理学実験でした。数多の回路とたくさんのケーブルが繋がったシステムを駆使してナノ秒で測定時間を制御する計測は、動作を理解するだけでも一苦勞でしたでしょうが、写真のように果敢に立ち向かい、最先端の実験手法に触れる極めて貴重な経験ができました。また、本実習はフィリピン

の最高学府・フィリピン大学ディリマン校の研究者の方々・SPring-8の研究者の方々と共同で行いました。国内外の優れた研究者との交流は、研究や進路という枠でだけでなく人生において極めて良い刺激になったのではないのでしょうか。

改めまして、当研究室の学生に学外にて先進的計測に関わる得難い機会をいただいたことにお礼を申し上げます。今後とも変わらぬご支援をいただけますと幸いです。



地球環境防災学科の学生野外研修事業報告

「地質調査法実習」の報告

地球環境防災学科 根本直樹

地球環境防災学科では地質調査法実習という授業を、3年生を対象に開講しています。この実習は実際に野外に出て地層を観察して記載する点に特徴があります。しかし、大学の近郊では地層を観察できる場所がないため、平川市の白岩森林公園に学生を連れて行っています。学生やスタッフを実習地まで移動させるには借上バスが効率的なので、バス借上代の一部を理工学部後援会に援助して頂きました。

2024年度の野外実習は5月12日、6月2日、6月16日に行いました。写真は5月12日に撮影したものです。地質調査は本来一人で行いますが、初回ということもありこの日は3人1組に別れて調査を行いました。左上の学生が露頭（崖）に登って地層の観察・測定を行っています。右の学生はその結果を記録しています。中央の学生は観察者に観察漏れがないかをチェックするとともに、崖の登り降りでは足場の位置の指示等安全面の配慮も行

いました。一箇所に履修者が集中すると作業が非効率になるので、他の組は他の露頭を観察しています。

3回の野外実習で8つの露頭の観察を行い、野外調査は終了となります。7月の屋内実習では、3回の野外実習で得たデータを使ってこの地域では地層がどのように重なっているかを考察しました。

理工学部後援会からの御援助で今年度も大過なく実習を終えられたことに感謝申し上げますとともに、次年度以降のご支援もよろしくお願い致します。



3人1組で地層の観察と観察結果の記載に取り組む地質調査法実習の履修生

International Conference on Magnetism 2024 に参加して

機能創成科学専攻材料プロセス工学分野 御領研究室 今津毅士

私は2024年6月30日から7月5日にかけてイタリアローニャで行われたInternational Conference on Magnetism 2024 (ICM2024)に参加して“Surface magnetization of the chiral superconducting state in a spin Hall metal (スピンホール金属におけるカイラル超伝導状態の表面磁化)”というタイトルでポスター発表を行いました。超伝導は電気抵抗がゼロであるためにエネルギーロスなしに電流が輸送される現象で、その中でも私はトポロジカル超伝導と呼ばれる種類の超伝導体に特に着目し、それらの様々な特性について理論的な手法を用いて研究を行っています。今回の発表内容は時間反転対称性を破るトポロジカル超伝導であるカイラル超伝導におけるスピン流と自発磁化に関する理論的研究です。当該国際会議は毎年開催されている強相関電子系の国際会議のうち3年に一度開催される磁性に特化した会議です。今回はイタリア

での開催でしたが、数年に一度は日本でも開催されます。イタリアで開催される国際会議への参加は初めてでしたが、約90分間の発表時間の中で様々なディスカッションを行うことができました。この経験を今後の研究や学会発表に活かしていきたいと思います。

最後になりますが、ICM2024に参加するにあたり弘前大学理工学部後援会より旅費の一部を援助いただきました。心より感謝申し上げます。



令和5(2023)年度 弘前大学理工学部後援会決算書

		収 入	支 出	繰 越
◆一般会計		5,440,817	3,306,040	2,134,777
収入の部	繰越金	2,012,812	令和4年度より	
	会費	3,418,000	新入生(R5年度) 〔学部学生 73人 1,060,000 大学院生(前期課程) 33人 660,000 大学院生(後期課程) 40人 400,000〕 新入生(R6年度) 84人 1,680,000 在学生(編入生・院生含む) 37人 650,000 教職員 10人 28,000	
	繰入金	0	特別会計から繰り入れ	
	雑入	10,005	預金利息5円・寄附金10,000円	
	合 計	5,440,817		
	支出の部			
	教育・研究支援費	2,597,302	大学院生研究発表旅費補助(829,200) ・前期申請8人(365,000)・後期申請11人(464,200) 学科事業補助(784,508) ・学生の外部研究施設での実験実習参加交通費補助(287,700) ・学科外研修旅行補助3件(348,018) ・電子情報工学科ホームページ(HIP)更新経費補助(100,550) ・県内高校生向け体験型授業指導補助学生謝金(6,000) ・教育カリキュラムガイド作成補助(42,240) 学部事業補助(983,594) ・理工学部保護者懇談会補助(札幌会場含む)(527,594) ・学習相談チューター謝金補助(253,000) ・「楽しい科学」「サイエンスへの招待」体験補助学生謝金(195,000) ・TOEIC等受験料補助(8,000)	
	就職対策支援費	78,500	就職ガイダンス(OB・OG講演・企業人講演)	
	卒業・修了祝賀会費	5,256	退職教員記念品代	
	印刷費	278,520	・会報第20号印刷代2,000部(193,600) ・払込取扱票印刷代4,000部(32,120) ・事業活動チラシ印刷代2,000部(52,800)	
	通信・運搬費	105,932	加入案内送料(研究科新入生)(11,188) 加入案内送料(在学生未加入者)(84,024) 理事会開催案内送料等(10,720)	
支出の部	会議費	0	役員交通費等	
	事務費	180,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金	
	備品・消耗品費	14,361	プリンタラベル、封筒他	
	振替払込料	45,899	会費払込手数料(207人)・郵送通知料金(89通)	
	予備費	0		
	合 計	3,306,040		

※中止：新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった事業

		収 入	支 出	繰 越
◆特別会計		6,811,330	0	6,811,330
収入の部	繰越金	6,811,275	令和4年度より	
	繰入金	0	一般会計から繰り入れ	
	雑入	55	貯金利息	
	合 計	6,811,330		
支出の部	学部特別事業支援費	0		
	繰出金	0	一般会計へ繰り出し	
	予備費	0		
	合 計	0		

令和6(2024)年度 弘前大学理工学部後援会予算書

		予 算 額	備 考
◆一般会計		2,134,777	令和5年度より
収入の部	繰越金	2,134,777	令和5年度より
	会費	3,516,000	新入生(R6年度) 77人 1,180,000 〔学部学生 40人 @ 20,000 800,000 大学院生(前期課程) 35人 @ 10,000 350,000 大学院生(後期課程) 2人 @ 15,000 30,000〕 新入生(R7年度) 80人 @ 20,000 1,600,000 在学生(院生含む) 35人 @ 20,000 700,000 教職員 18人 @ 2,000 36,000
	繰入金	0	特別会計から繰り入れ
	雑入	200	預金利息
	合 計	5,650,977	
支出の部	教育・研究支援費	3,386,000	大学院生研究発表旅費補助(900,000) 学科事業補助(1,040,000) ・学生の外部研究施設での実験実習参加交通費補助(450,000) ・学科外研修旅行補助5件(540,000) ・県内高校生向け体験型授業指導補助学生謝金(7,000) ・教育カリキュラムガイド作成補助(43,000) 学部事業補助(1,446,000) ・理工学部保護者懇談会補助(札幌会場含む)(930,000) ・学習相談チューター謝金補助(276,000) ・「楽しい科学」「サイエンスへの招待」体験補助学生謝金(220,000) ・TOEIC等受験料補助(20,000)
	就職対策支援費	170,000	就職ガイダンス補助(OB・OG講演・企業人講演)
	卒業・修了祝賀会費	20,000	理工学部同窓会と共催・退職教員花束・記念品代
	印刷費	240,000	会報第21号(①120×2,000部)
	通信・運搬費	120,000	加入案内送料等(①120×1,000人)
	会議費	5,000	役員交通費等
	事務費	240,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
	備品・消耗品費	165,000	事務用デスクトップパソコン、プリンタラベル、封筒他
	振替払込料	53,000	会費払込手数料(①200×210人)・郵送通知料金(①110×100通)
	予備費	1,251,977	
◆特別会計	合 計	5,650,977	
	収入の部		
	繰越金	6,811,330	令和5年度より
	雑入	2,000	預金利息
	合 計	6,813,330	
支出の部	学部特別事業支援費	0	
	繰出金	0	
	予備費	6,813,330	定期預金(3,000,000)
	合 計	6,813,330	

編集後記

理工学部後援会発足時より長きに渡り当後援会の事務を担当していただいております丹藤直憲さんが、昨年8月にお亡くなりになりました。突然のことで大変驚きましたが心より御冥福をお祈りします。当後援会は、厳密には大学とは別組織のため、大学の事務職員の場合は大学の業務として行えないこともあり、後任の事務担当者の選出には難しい面もございましたが、庄司聡理工学研究科事務長のお力添えにより、無事、杉本尚子さんにご担当していただけることになりました。当後援会の活動は、本号のように幾つか紹介されております通り多岐にわたっており、皆様からの温かいご支持により成り立っております。今後ともどうぞ変わらぬご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。(特別会員理事(教員)川上 淳)

令和6年度 弘前大学理工学部後援会 役員等一覧

- 会 長
糠 塚 いそし
- 副会長
奈 良 肇 (物質創成化学科)
- 理 事
・ 通常会員
小田 桐 均 (数物科学科)
工 藤 佐知子 (数物科学科)
村 上 純 一 (物質創成化学科)
棟 方 秀 和 (物質創成化学コース)
工 藤 正 英 (地球環境防災学科)
中 西 英 樹 (電子情報工学コース)
鍋 田 真貴子 (機械科学科)
山 崎 隆 徳 (機械科学科)
松 橋 伸 哉 (自然エネルギー学科)
・ 特別会員
御 領 潤 (理工学研究科教授・数物科学科)
川 上 淳 (理工学研究科教授・物質創成化学科)
前 田 拓 人 (理工学研究科教授・地球環境防災学科)
・ 賛助会員
糠 塚 いそし (弘前大学理学部昭和52年3月卒業、
令和2年3月理工学研究科教授定年退職、弘前大学名誉教授)
- 監 査
前 田 清 幸 (電子情報工学コース)
藤 野 祐 子 (機械科学科)
- 顧 問
金 本 俊 幾 (理工学研究科長・理工学部長)

会 務 報 告 (第21回理事会・総会)

定例の理事会・総会がそれぞれ6月5日(水)と10月19日(土)に開催されました。

理事会では、最初に役員の交代について諮られ承認されました。監査結果報告の後、令和5年度決算案及び令和6年度事業計画と予算案について審議が行われ、原案どおり承認されました。

総会は保護者懇談会当日に並行して行われ、糠塚会長が議長を務め、6月の理事会で承認された令和5年度決算案及び令和6年度事業計画と予算案について追認されました。

来年度の定時総会は保護者懇談会開催(総合文化祭期間中)に併せ、10月下旬頃に開催予定としました。また、理事会については、今年度は案件があれば開催することとし、来年度の開催は本年度と同様6月上旬頃に開催予定としました。

弘前大学理工学部後援会ホームページアドレス：

<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/koenkai/>

弘前大学ホームページの理工学部ホームページはこちらを開いてください。